

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ともえ	ユニット名	1階
所在地	静岡県葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	平成30年11月11日	評価結果市町村受理日	平成31年1月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ敷地内に保育園があり、1階の居間のカーテンを開くと0歳から2歳の園児が園庭で遊んでいる姿が見えます。天気の良い日は玄関外に出て園児の姿を眺めたり、交流を楽しんでいます。すぐ横を流れる巴川には鯉や鴨等がいて、良い散歩コースとなっています。家族がいない入居者様も数名おられる為に、もう一つの大事な家族だと思いサービスをさせて頂いております。自分のできることはして頂きながら、その方の役割を作り、充実した毎日を過ごして頂けるよう努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2274201579-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2274201579-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年12月7日		

法人の管理体制が整っており、特に人材育成に力を注ぎ多くの職員が介護のプロとして育っている。経験豊富な管理者と法人の姿勢が一致していることで相乗効果が生まれ、事業所で年間研修計画を作成し、研修で学んだことを生かせる現場となっている。また、事業所が職員を大切にすることで職員も支援に集中することができている。そのような環境の中で過ごす利用者からは笑顔が溢れ、自立に向かう生活振りを垣間見る事ができた。最近では訪問医療機関との連携により、医療を取巻く環境がより整備されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を念頭に、入居者様達が少しでも笑顔で生活できるよう心掛けている。敷地内に保育園があることで、いつでも園児を見ることができる環境であるために、入居者様の笑顔が増えている。	パンフレットで「笑顔があふれる安心した暮らしのできる家」と理念を紹介し、行動指針も示している。介護の仕事には「笑顔」が不可欠で、皆が笑顔で話し合える関係作りを目指し、その心を共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が、雑巾を縫って持ってきて下さったり、保育園の先生、保護者、園児と交流を持っていて。散歩の時は近所の方と挨拶を交わしている。地域の賛助会員になっている。	事業所へは保育園の中庭を通ることから、先生はじめ園児や保護者との交流が深い。近隣は住宅地で神社もあり、散歩の際には住民と声掛け合い、境内で休憩する事もできる。町内会とは回覧板に職員募集を掲載してくれる関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、民生委員や町内会の組長も来て下さり、認知症について質問等に関りを持っていて。以前、組長会議で講演してほしいと依頼があったが実現出来ていない為に機会を作ると言われている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日々の報告の後に質疑応答の時間を作り話し合いをしている。皆さんが意見して下さい、サービス向上に活かせることが出来ている。	会議は奇数月の第3金曜日に開催している。地域包括支援センターはじめ、町内会長や副会長、民生委員や家族等が出席し、運営状況の報告や審議の議題に沿った活発な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方も毎回推進会議に参加して下さい、地域包括、役所に会議の案内はFAXではなく直接渡しに行くことで少しでも話せる機会を作る努力をしています。	報告書の提出や質問事項があれば市の窓口へ直接出向き、互いに信頼関係を深めるよう努めている。市や介護相談員派遣制度の受入れ事業所として、保険者機能を持つ相談員の感じた事を聞き参考にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開き、職員に周知している。どうしても拘束が必要な場合はご家族に同意書を書いて頂き、必要がなくなった時に中止している(皮膚疾患の為に着替えを着用されていた方が以前いました)	法改正による「身体拘束等の適正化の推進」の諸項目を理解して、法人傘下の事業所が一体となり取り組んでいる。法人の管理者会議の際に外部講師による研修を行い、内容は事業所での伝達研修により実践に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を立ち上げ、虐待についての研修も定期的に行っています。例をあげてわかりやすく説明することで防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている入居者様が数名おられる。制度の理解についての研修は最近していない為に再度行いたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームのメリット、デメリットを契約時にお話しさせて頂き、理解を得ています。契約後も何かあったらいつでも言ってもらえるようにご家族との距離を近く保つ努力をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、月次報告書を送り近況報告している。玄関にはご意見箱を設置しており匿名でも意見しやすいように工夫している。推進会議でご家族から出た意見をホームの会議で話し合い活用させていただくこともある。	事業所と家族をつなぐ「ともえ通信」を毎月発行している。利用者の健康状況や生活の様子を報告し、意見の吸収に努めている。家族の来訪時には管理者が率先して面談に努め、家族と近い関係を築くことで意見を出し易くしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のレク担当を決めており、季節に合ったレクを担当職員が企画し、提供するようにしている。全体会議やユニット会議で職員の意見を聞いている。個人面談で意見を聞き出すこともしている。	レクリエーション等の行事を増やし、内容の充実を図る事で事業所内が活性化し笑いも増えている。諸会議でレクリエーション担当者を中心に、各職員からの提案や意見をまとめて実践に繋げている。法人本部の判断が必要な案件以外は会議で解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、正月出勤特別手当があり、評価制度導入も導入しやりがいをもたらしめている。人手不足で残業が多いが、15分単位で残業代も支払われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月本社で管理者会議を開き、代表者と意見を交換している。社内研修だけでなく、ホーム内研修にも力を入れている。各ホームの力量に合わせて研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の集いに参加し、地域の同業者との名刺交換、交流に努めている。来年1月はうちのホームと系列ホームが司会、書記を務め集いを行う予定になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時にご本人、ご家族から詳しくお話を聞き、アセスメントをしっかりと、職員間で情報を共有し、その人らしい生活ができるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい環境を作り、どんな些細なことでも聞き逃さないようにし、ご家族の不安、要望には耳を傾け、良い関係作りに努めている。その後も面会に来られた際に話す時間を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ、本人とご家族の要望を取り入れている。本人がどのようなサービスを取り入れることでその方らしい生活が送れるのか、アセスメントをしっかりとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の尊厳を守りながらも親しみやすい環境を作りながら信頼関係を作るように努めている。一緒に家事を行ったり、仕事を頼むことで本人の役割を感じていただくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、月次報告書を送らせて頂き、本人の情報をご家族と共有している。普段のさりげない一コマを知らせることでご家族の安心感にも繋がっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会が少なく、理容ボランティアや往診のドクター、ナース等との馴染みの関係を維持している。介護相談員や推進会議に来られる地域住民の方も同様である。	入居前から家族や友人との関係が疎遠である利用者が多い事情を考慮して、利用者が事業所に入出入りする人や地域の人達と馴れ親しんで生活を続けられるように、職員全員でその意識を共有し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、交流の橋渡しに努めている。認知症の進行に伴い交流が難しくなる入居者様には他者とトラブルにならないように注視している。相性を考えて居間の席替えを行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのお見舞いや面会も心掛けている。ご家族から報告の連絡を頂くことがあったり、使わないからと洋服やお野菜を頂いたりすることがあるのがありがたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中で、思いや訴え等に耳を傾けています。目を見て話すように心掛けたり、意思疎通が難しい方でも顔の表情等を見逃さないように心掛けています。	利用者に丁寧な話しかけ、さりげない会話の中で何をしたいか等の思いを聞き取り、理解するようにしている。また、話のできない利用者の方は、日頃の様子やテレビを見ている時の表情等からも思いを読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントにはしっかり目を通し職員同士の情報の共有により把握に努めています。ご家族との会話、本人とのやり取りから少しでも情報が収集できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態には常に注意をはらっており、一人一人の行動を観察し、体調や思いなどの把握に努めている。自室に籠りがちな方にも巡回、声掛けを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に日頃から話を聞くように努め、カンファレンス時にはモニタリングを行い現状確認し、意見を出し合い現状に即した介護計画を作るよう努めている。	介護計画は長期は1年毎に、短期で6ヶ月毎に見直しており、急変時等は随時見直している。月1回開催するユニット会議の後半では、カンファレンスを実施し職員が意見を出し合っている。家族の面会は少ないが可能な限り意向を聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことや行ったこと等、常日頃から申し送りノート、ケース記録等に記入し、職員間で情報共有をしており、それをもとにカンファレンスで話し合い実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の理念であり「その人そのために」を念頭に、個別対応として柔軟な支援ができる様心掛けている。その為にもご家族、ご本人との会話を大事にすることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容を活用しています。隣接の保育園児との交流も楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックによる訪問診療を受けている。定期診察の他に、特変があった場合でも24時間対応の臨時診察もあり、ご家族、ご本人の安心感にもつながっている。	利用者全員が近隣のクリニックを主治医としている。月3回主治医の往診があり、緊急時等は24時間対応が可能となっている。また、同病院の看護師が往診時に同行し月1回の訪問もあり、十分な医療連携が組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックナースによる訪問看護の日だけでなく、日頃から診察や処置に来ている時に相談や対応をしており、入居者様が適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はご家族と医師との話し合いに参加し、治療等の情報を共有、確認している。定期的に病院に伺い病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際のことは、入居時に同意書を頂いているが、状態に変化が見られた際は、ホームドクターの医師による状態説明があり、ご家族に再度意思を聞いている。ご家族、ご本人の意思を尊重し、医師、看護師、職員が可能と判断した場合に看取りを行っている。	この1年で3人の看取りを行っている。入居時に重度化した際の方針を説明し同意書ももらっているが、3名のうち1名は主治医による状態説明の後で再度家族に意思確認をして同意書をもらい、医師、看護師等の支援により看取った。他の2名は、医師や家族と看取りについて相談していたが急変して亡くなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが用意されている。定期的に研修を行い身につけるよう努めている。緊急時や事故発生時は静岡ホームクリニックに指示を仰いだり、必要であれば往診もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。入居者様の身体状況による避難方法も話し合っている。地域との協力体制も築いている	年2回の防災訓練を実施している。市からの指示で、水害の想定訓練として1階の利用者を階段で2階に上げる等の訓練を実施し手ごたえを得た。備品は法人の規定通りに保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合った対応を心掛けている。その人の行動を見て、何をしようとしているのか、なぜそうしようとしているのかを考え行動しています。尊厳を守る言葉使いを心掛けています。	利用者に対しては、年長者として敬意を払った言葉遣いを徹底している。風呂やトイレ、また居室への入室時のノックを励行している。利用者の呼び名は、家族等からの依頼がある場合を除いてあだ名やちゃん付けは禁止している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できることは本人に選択していただくようにしています。自己決定を促す声掛けをしたり、一緒に選んだり、会話の中に希望や思いをだされた場合には、意向に沿うように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、ご本人のペースをなるべく優先するように心掛けています。職員側の決まりや都合に合わせるのではなく、入居様が主体ということを常々職員に伝えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃り、女性は整髪、男女ともに爪切り等の介助を行っています。外出の際は特にオシャレを楽しんでいただけるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同様の献立が続かないように工夫し、入居様の食欲がでるよう、色等もの考えて提供している。ミキサー食の方が増えたので少しでも食べやすく、美味しく食べて頂けるように努力している。食器拭きやお盆拭きをして頂いている。	献立は冷蔵庫の食材を見て同じメニューにならないように工夫し、職員が日々決定している。利用者の希望は食材の買物時等に聞いており、誕生会や敬老会には行事食として寿司等を提供している。できる範囲で下膳や食器拭き、盆拭き等の手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分量や食事量は毎日記録することで職員間で情報共有している。食べる量が少ない方は栄養補助を静岡ホームクリニックに相談したり、食べやすい形状にしたり、時間をずらして対応等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声掛けで口腔ケアを促しています。介助が必要な方は口腔ケア用スポンジや、ウエットティッシュ等を用いて行っていますが、毎食後は行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前と違う新しい排泄チェック表を用いてその方の排泄パターンを知るように努力しています。オムツの方、リハビリパンツの方、それぞれに合った支援を行っています。	改善した排泄チェック表を使用し、以前より詳しいチェックをすることで丁寧な自立支援が可能となった。毎食時にヨーグルトを提供したり、冷たい牛乳を提供したりすることで便秘防止に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日確認し、便秘者の把握に努めている。牛乳、ヨーグルトや便秘薬を処方して対応しています。毎日体操を取り入れたり、水分の少ない方には本人の好きなものを用意したりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を定めることなく週に2~3回のペースで入浴されています。入浴剤も3種類用意し、ご本人に選んでいただいています。座位が安定しない方のシャワー浴は2人介助で行い安全に努めています。	毎日最低3人、利用者每では週2~3回の入浴機会がある。入浴を拒否する利用者には声掛けからスタートし、時間や人を替えて誘うようにしている。脱衣所に行ってもらうまでが難しく、そこまで行ければ楽しんで入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に休んで頂いています。室温にも十分注意をしています。身体状況の変化によって介護ベッドに移行しています。休まれている際はベッドの高さも低くして安全に心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬ファイルを用意しており、理解するよう努めている。処方された薬を間違いないで服用して頂く為に声を出し確認、飲み込み確認を行っている。症状に変化があった場合ホームドクターに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを模索し役割をもって頂くように支援している。趣味を活かせるように努め、嗜好品も提供できるように支援している。散歩や音楽鑑賞、DVD鑑賞、園児との交流等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換として近くの巴川まで散歩に出かけたり、食材の買い物に同行で出かけたりにしている。ご家族と外出される方は殆どいません。座位を長く保つのが大変になった方が増えてきている現状の為、外出支援が以前より難しくなっている。	春と秋は週2~3回近くの河川へ散歩に行き、食材等の買い物には月2~3回出かけている。毎月実施するレクリエーションでは、花菖蒲の見学や紅葉狩り等に出かけることもある。外出の難しい利用者は、園庭に臨む居間のソファで日光浴を楽しんでいる。	利用者の重度化により次第に外出が困難になっている。季節を感じたり外気に触れることの大切さを重視し、近場の散歩を増やしたり園庭の散歩や日光浴等、更に外出の機会を増やすことを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どの方が出来ないのでホームで管理しています。買い物に出かける際はご本人に財布を持って頂き支払いをして頂くこともあります、理解できる方はかなり少ない現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限はしていないが、ご家族のいない方、疎遠の方が何名かおられる。またご家族の面会、電話、手紙等が一切ない方もおられる現状です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールでは熱帯魚を飼育したり、行事の写真を掲示してある。居間は園庭を眺められるようにソファを置いたり、音楽を流したり、懐かしいDVDを流したりして心地よさを演出できるよう努めている。不快な臭いがないよう心掛けている。	クリスマスや敬老会、誕生会等に合わせて季節毎に貼り絵が飾られている。居間や食堂内では、利用者がゆったり過ごせるようにDVDで音楽と映像を流す時間もある。隣接する保育園の園児の声で心が和む利用者がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性がいい同士でテーブルを囲むようにしたり、一人で外を眺めたりできるようにソファを置いたりしている。玄関ホールにベンチ、玄関外にはテーブルセットがあり、好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みの家具をお持ち頂くことを提案している。ご家族がいない入居者様も多く、家具がほとんどない方もおられる。ベッドの配置把握に努めています。ご本人やご家族と相談しながら行っています。	テレビや机、家族の写真やラジオ等好みの品が配置されている。洗面台とクローゼットは据え付けて、ベッドの配置には気を配っている。本人と家族の希望で、畳の上にマットレスと布団を敷いて暮らす利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、脱衣所には手すりが設置しており、安全に移動できるように、または自立して行えるように支援している。浴槽内は滑らないように滑り止めマットを敷いている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ともえ	ユニット名	2階
所在地	静岡県葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	平成30年11月14日	評価結果市町村受理日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274201579-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274201579-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年12月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

同じ敷地内に保育園があり、1階の居間のカーテンを開くと0歳から2歳の園児が園庭で遊んでいる姿が見えます。天気の良い日は玄関外に出て園児の姿を眺めたり、交流を楽しんでいます。すぐ横を流れる巴川には鯉や鴨等がいて、良い散歩コースとなっています。家族がいない入居者様も数名おられる為に、もう一つの大事な家族だと思いサービスをさせて頂いております。自分のできることはして頂きながら、その方の役割を作り、充実した毎日を過ごして頂けるよう努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を念頭に、利用者様のご家族、利用者様、近隣の住民の方等に常時笑顔で挨拶、会話を実践している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りには積極的に参加し、ホームの名前と利用者様の顔を覚えてもらえるように努力している。また隣接の保育園の関係者、園児との交流も心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域の方から質疑応答の時間を設け、認知症についての説明を行っている。町内の組長会で認知症の勉強会の話を受けたがまだ実行されていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の出来事、事故報告等を行いアドバイスを頂き、会議時に職員に周知し、ケア向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員とは相談日に必ず会話する時間をとっている。役所、包括に用事がある際はFAXではなく必ず出向き会話をするようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行うことにより、職員の知識向上に努めている。玄関は安全面を考え夜勤者が一人の時間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、どのような行為が虐待になるのか検証し職員同士が気になったケアについて話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護を利用されている入居者様に面会があり、どういものか学ぶことが出来ている。勉強会を開き再確認を行う機会を作る予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	メリットだけでなく、デメリットについても聞いて頂いた上で、不安やわからないことがあったら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月次報告書で日頃の様子をお伝えし、ご家族からも意見を頂けるようにご意見箱を設置している。面会の際にいつでも事務所に立ち寄って頂けるような雰囲気作りに努めており、要望や意見は会議で周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のレク担当を決めており、季節に合ったレクを担当職員が企画し、提供するようにしている。全体会議やユニット会議で職員の意見を聞いている。個人面談で意見を聞き出すこともしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、正月出勤特別手当があり、評価制度導入も導入しやりがいをもたらしている。人手不足で残業が多いが、15分単位で残業代も支払われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月本社で管理者会議を開き、代表者と意見を交換している。社内研修だけでなく、ホーム内研修にも力を入れている。各ホームの力量に合わせて研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の集いに参加し、地域の同業者との名刺交換、交流に努めている。来年1月はうちのホームと系列ホームが司会、書記を務め集いを行う予定になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時の情報をアセスメントに細かく記入し、職員間で情報を共有し利用者様の望む生活が出来るように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい環境を作り、どんな些細なことでも聞き逃さないようにし、ご家族の不安、要望には耳を傾け、良い関係作りに努めている。その後も面会に来られた際に話す時間を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ、本人とご家族の要望を取り入れている。本人がどのようなサービスを取り入れることでその方らしい生活が送れるのか、アセスメントをしっかりとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方にふさわしい日常の過ごし方を考えています。職員と一緒にいろいろな家事を行ったり、食事の味見をして頂く等、共に暮らしている同士の関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月、月次報告書を送らせて頂き情報を共有できるようにしている。面会に来られた際は積極的に声をかけるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会が少なく、理容ボランティアや往診のドクター、ナース等との馴染みの関係を維持している。介護相談員や推進会議に来られる地域住民の方も同様である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係を理解して、トラブルが起きず楽しく過ごして頂けるように心配りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのお見舞いや面会はもちろん、ご家族からの連絡には誠意をもって対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の会話の中から本人の思い、本心をくみ取るよう努めています。困難な場合も表情を見たり様子を注視し、くみ取る努力をしています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントを確認し、ご家族にも情報を伺い、ご家族のいない利用者様とは会話や日々の様子から把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に利用者様の健康状態には十分注意している。日常の様子をケース記録に記載し現状の把握に努めている。有する力も検証を行い一人一人の出来る事出来ないことの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に日頃から話を聞くように努め、カンファレンス時には現状確認し、意見を出し合い、ご家族や本人の意向を反映させながら現状に即した介護計画を作るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに記入し、情報の共有に努めており、それを元にカンファで話し合い、介護計画の実践や見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の理念であり「その人そのために」を念頭に、個別対応として柔軟な支援ができる様心掛けている。その為にもご家族、ご本人との会話を大事にすることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容を活用しています。隣接の保育園児との交流も楽しんでいます。地域の祭りにも積極的に参加して交流を深めるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックによる訪問診療を受けている。定期診察の他に、特変があった場合でも24時間対応の臨時診察もあり、ご家族、ご本人の安心感にもつながっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックナースによる訪問看護の日だけでなく、日頃から診察や処置に来ている時に相談や対応をしており、入居者様が適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はご家族と医師との話し合いに参加し、治療等の情報を共有、確認している。定期的に病院に伺い病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際のことは、入居時に同意書を頂いているが、状態に変化が見られた際は、ホームドクターの医師による状態説明があり、ご家族に再度意思を聞いている。ご家族、ご本人の意思を尊重し、医師、看護師、職員が可能と判断した場合に看取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが用意されている。定期的に研修を行い身につけるよう努めている。緊急時や事故発生時は静岡ホームクリニックに指示を仰いだり、必要であれば往診もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。入居者様の身体状況による避難方法も話し合っている。地域との協力体制も築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けをしており、無理強いはいしないよう努めている。プライバシー確保として自室に訪室の際は必ずノックをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時、入浴時の服は本人に選んで頂き、決められない場合は一緒に選ぶようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で、個人の時間を優先するために常にコミュニケーションをとり、利用者様の希望に沿うよう努め、寄り添った介助を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ時、その日の気温や素材も気を付けています。洗濯物を畳む時は、ほつれや破れがないか確認しています。髭剃り、整髪、爪切りも注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節に合わせ、旬のものを取り入れて食事を作っています。五感を感じるように色彩にも配慮し、その方に合った食事を提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分量食事量は、毎日記録し職員間で情報を共有、水分摂取が少ない時は色々な飲み物を提供しています。食事は食べやすい形状で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は見守り、介助が必要でうがいが出来ない方は口腔スポンジを使用、義歯の方は自分で外して頂き、うがい後ポリデント使用しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況の低下により排泄の自立が難しくなっているが、トイレでの排泄が出来るように排泄チェック表を元に一人一人のパターンに合わせて支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、食物繊維が多い食材を使用したり、水分量や腸の動きの為に体操をしたり個々に応じ予防に取り組んでいるが、服用している薬によっては便秘薬に頼らざる得ないこともある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに週に2~3回の入浴をされている。3種類の入浴剤から好きなものを選んで頂いている。状態によりシャワー浴の方がいるが足浴と一緒にいき、少しでも温まるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体状態の変化で介護用ベッドに移行したり、体に負担がないように努めている。夜間も気持ちよく眠れるよう排泄に注意している。低床にし安全にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬ファイルを用意しており、理解するよう努めている。処方された薬を間違いなく服用して頂く為に声を出し確認、飲み込み確認を行っている。症状に変化があった場合ホームドクターに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活分担の中で、その方の役割を作ることで張り合いのある生活が出来るように支援している。音楽を流したり、DVDをかけたり、散歩、園児との交流等で気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望で近所に散歩に出かけることは度々あるが、ご家族や地域の協力で出かけることは殆どない。身体状況で外出が厳しくなっている方が増えている現状がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご本人でお金を管理されている方はおらず、ご家族かホームが管理している。一緒に買い物に行く機会が殆どないのが現状。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族がいない方も数名おり、ご家族のいる方もご自分から電話をかける方はいない。かかってくることもないが、ホームからご本人の様子は月次報告書で報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には利用者様と職員が一緒に作った季節の壁画を掲示してある。ゆったりとテレビ鑑賞できるようにソファを置いたり、音楽を流したり、懐かしいDVDを流したりして心地よさを演出できるよう努めている。不快な臭いがないよう心掛けている。乾燥時期は加湿器を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性がいい同士でテーブルを囲むようにしたり、ゆったりとテレビが観れるようにソファを置いている。必要に応じてテーブルのレイアウトを変更したり席替えして居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものをお持ち頂くことの意味を説明させて頂いている。個々の居室内は好きなようにレイアウトをして頂いているが殆ど荷物が無い利用者様もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、脱衣所には手すりが設置しており、安全に移動できるように、または自立して行えるように支援している。車椅子のフットレスはウレタン等を巻き、足の保護に努めている。		